



MFJ GP
SUZUKA

2016 48th MFJ GRAND PRIX
SUPERBIKE RACE in SUZUKA



SUPERBIKE
EXtra, EXpert and EXtreme
EXPRESS--

SUPERBIKE EXPRESS 2016 VOL.9 MFJ GRAND PRIX SUZUKA



 **JSB 1000** QUALIFYING PRACTICE REPORT & INTERVIEW
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

5年連続7度目のタイトル獲得に王手をかける中須賀克行 レース2は津田拓也がポール。ハスラムがレースをかき回すか!?

ついに最終戦を迎えた全日本ロードレース選手権。2016年も、ここまで4戦5レース中4勝を挙げた中須賀克行の強さが際立つ結果となっている。2レース制で行われる今回のMFJグランプリも、大きな動きがなければレース1で中須賀の5年連続7度目のタイトルが決まることになるだろう。昨年は、予選で2分05秒192というコースレコードを樹立した中須賀だけに、今回は、2分04秒台に入るのでは?

という期待もあったが、前週に行われたスーパーフォーミュラの影響もあり、思うようにタイムを出せなかった。中須賀がやや停滞している中、木曜日は、津田拓也、そして今回スポット参戦のレオン・ハスラムが金曜日のトップタイムをマーク。中須賀にとっては、おもしろいはずがないが、公式予選に向けて自信はあった。「レオンが来て、簡単にトップに立てると思われたくないですし、全日本のレベルが高いところを証明したい。そのために予選から前に行かなければならない、その自信はあります」と金曜日に語っていた。その気合い通り、Q1では、計測2周目に2分05秒台に突入する。その後、うまく目標を見つけた津田が中須賀を上回りレース2のポールポジションを獲得する結果となったが、中須賀の調子は悪くはなかった。続くQ2で2分05秒535をマークしレース1のポールポジションを獲得した。「予選では、意地を見せることができたと思います。プレッ

シャーはありますが、できればレース1で勝ってタイトルを決めたいですね。もちろんレース2も勝ってシーズンを締めくくりたいと思っています」と中須賀は、自信のコメントを残した。第8戦岡山国際を終えた後、MotoGP™日本グランプリに参戦、MotoGP™マシンのテストもあり、初日は、乗り換えに苦労していた部分もあったが、しっかり修正してきた。ダブルウィーンに向けて視界は良好と言えるだろう。

Team GREENからスポット参戦のハスラムは、Q2で2分05秒689をマークし、2番手につける速さを見せた。今シーズンは、プリティッシュスーパーバイク(BSB)でランキング2位。その最終戦が2週間前、先週はカタールで行われたスーパーバイク世界選手権(SBK)最終戦に代役参戦し、日本には水曜日に入り、木曜から走行を開始するというハードスケジュールながら、藤原克昭コーチのアドバイスもあり、初日からいいフィーリングで乗れていたという。また、マシンは、今回残念ながら欠場となってしまった柳川明が試そうとしていたセッティングからスタート。柳川の功労もあり、金曜日にはトップタイム、そして予選で2分05秒台の好タイムをマークできたと言う。アペレージもいいだけに、レースをかき回す存在になりそうだ。

今シーズン、イクイップメントを変更したものの、なかなかマシンがまとまらず低迷していた高橋巧が、

今回は自己ベストを更新する走りでも予選3番手につけた。「ようやく普通に走れるようになってきました。2分05秒台に入ったのは、自分でもビックリしました。仕掛けられそうなポイントもありますし、両レースとも全力で走るだけです」と今季一番のレースを見せてくれそうだ。

Team GREENの渡辺一樹は、レオンが注目される中、虎視眈々とマシンセットを進めて来た。「Q1では試しておきたいことがあったので、セットを進めながら2分06秒台で走れていますし、Q2ではハード目のタイヤを使い、ほぼ同じタイムでしたので、アペレージではいい状態にあると思います」と自信をのぞかせる。

レース1は、昨年の10周より短い8周という短期決戦で行われる。混戦になればペースが下がるかもしれないが、昨年は、2分06秒台のハイペースとなった。今年は、それを上回るようになる可能性は高いだろう。中須賀、津田、レオン、渡辺、高橋巧、野左根航汰と言ったところがトップ争いを繰り広げるだろう。20周で争われるレース2は、ガチンコとなるレース1とは違う展開になるかもしれないが、前述の7人は確実に前に来るはずだ。

各ライダー、各チーム、様々な思いが錯綜する2016年シーズン最終戦。今年も、またチャンピオンが鈴鹿で誕生する。

JSB 1000
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

レース1:ポールポジション: 2'05.535
#1 中須賀克行
YAMAHA FACTORY RACING TEAM

『BSB(ブリティッシュスーパーバイク)からレオン選手が来て、金曜日にトップタイムを出していましたが、何とも言えない気持ちでした。他のライダーもレベルが上がってきていましたし、絶対にポールポジションは獲らせまいと思っていました。全日本勢の意地を見せて、理想は自分が両方ともポールポジションを獲ることでしたが、Q1は津田選手が獲り、Q2でボクが獲ることができたので、レオン選手に全日本のレベルが高い所を見せることができたと思います。何より大事なものは、レースでしっかり勝ってチャンピオンを決めることですな』

レース2:ポールポジション: 2'05.824
#12 津田拓也
ヨシムラスズキシェルアドバンス

『Q1で、このタイムを出せると思っていなくて、Q2で2分05秒台を狙ってました。Q2では、一発タイムを出せるタイヤを履いたのですが、逆にバランスを崩してしまい、2分05秒台に入れることができませんでした。今回のレースウィークで初めて履いたこともあったのですが、レース用タイヤの方でタイムを出せたことはポジティブなことだと思っています。最後まであきらめずに優勝を目指します』

公式予選正式結果 JSB1000[Race1]

●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走29台
●決勝[Race1]スタード進行/10:50(8周)

Pos No	Rider	Team	Time
1	1 中須賀 克行	YAMAHA FACTORY RACING TEAM	2'05.535
2	91 Leon HASLAM	Team GREEN	2'05.689
3	634 高橋 巧	MuSASHi RT ハルク・プロ	2'05.890
4	12 津田 拓也	ヨシムラスズキシェルアドバンス	2'06.288
5	26 渡辺 一樹	Team GREEN	2'06.517
6	7 野左根 航汰	YAMALUBE RACING TEAM	2'06.946
7	104 山口 辰也	TOHORacing	2'07.196
8	15 藤田 拓哉	YAMALUBE RACING TEAM	2'07.326
9	71 加賀山 就臣	Team KAGAYAMA	2'07.444
10	090 秋吉 耕佑	au & テルル・Kohara RT	2'08.732
以上Q2にて決定:			
11	32 今野 由寛	Moto Map SUPPLY	2'08.091
12	85 中富 伸一	HITMAN RC甲子園ヤマハ	2'08.632
13	39 酒井 大作	Team Motorrad39	2'08.742
14	34 近藤 湧也	GBSレーシング Mochizuka YAMAHA	2'09.067
15	72 高橋 裕紀	MORIWAKI RACING	2'09.868
16	18 中津原 尚宏	オートテックニックススポーツPGR	2'10.937
17	19 寺本 幸司	Motorrad Rennsport	2'11.013
18	20 小島 一浩	Honda熊本レーシング	2'11.303
19	135 児玉 勇太	Team Tras 135HP	2'11.451
20	14 武石 伸也	SYNCEDGE 4413 Racing	2'11.960
21	66 筒井 伸	DOGFISHオーテックスズカ	2'13.633
22	99 吉田 和憲	icu RT 大阪ビウス Navel Rose モトキッズ	2'14.117
23	17 吉田 光弘	Honda熊本レーシング	2'14.332
24	21 須貝 義行	チームスライレーシングジャパン	2'14.583
25	37 樋口 耕太	H.L.O RACING	2'14.865
26	539 高田 昌明	北海道サベダー	2'15.416
27	35 古澤 幸也	RED SEED Motorrad	2'15.850
以上予選通過車両:			
28	45 坂本 弘正	北海道サベダー&ブラビッシモ	2'18.815
	22 出口 修	エヴァRT初号機TRICKSTAR	計測できず
予選通過基準タイム(Q1 110%) 2'18.644			

★JSB1000[Race1]のスターティンググリッドは、ノックアウト公式予選Q2まで終了した順となります。

JP 250 Presented by DUNLOP

田中歩(インター)、笠井悠太(ナショナル)がそれぞれ初代シリーズチャンピオンに!

JP250クラスMFJカップシリーズ最終戦の決勝レースは、ポールポジションの田中歩、南本宗一郎、安田毅史、佐野優人、仲村優佑らによる混戦となったが、7周目に赤旗中断。8週のレースは、6周目終了時の結果で成立した。この結果、インタークラスは田中(写真右)、ナショナルクラスは笠井悠太(同左)がそれぞれシリーズの初代チャンピオンとなった。



決勝正式結果(6周/上位15位)

●11月5日(土)予選-決勝 天候/晴 路面/ドライ 出走44台

Pos No	Cls.	Rider	Team	RaceTime
1	82 I 1	田中 歩	TRICK STAR Racing	15'30.210
2	22 I 2	南本 宗一郎	AKENOSPEED-YAMAHA	15'30.265
3	19 N 1	久保 直諒	Titanium Power&黒田屋	15'30.690
4	2 I 3	安田 毅史	TEAM AGRAS with NOJIMA	15'31.666
5	69 I 4	仲村 優佑	AKENOSPEED-YAMAHA	15'32.485
6	13 N 2	藤村 太織	TRICK STAR Racing	15'32.630
7	77 N 3	豊島 怜	Team NAP'S	15'32.958
8	97 I 5	佐野 優人	TEAM BATTLE	15'33.029
9	20 N 4	笠井 悠太	Team TEC.2	15'46.722
10	62 I 6	濹田 農史	TEAM-i-FACTORY	15'46.770

J-GP2
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

関口太郎が4年振りのポールポジションを獲得!
「まずは勝つこと。諦めずにしっかり走ります」



ポールポジション: 2'10.147
#44 関口 太郎
MISTRESA with HARC-PRO

午後一番となったのはJ-GP2クラスの公式予選。若手からベテランまで実力伯仲の注目クラスだ。まずは日浦大治朗が2分11秒697でトップに立つ。水野涼、関口太郎と続々11秒台をマークする上位陣。セッションの中盤には浦本修亮、生形秀之もそれに続き、関口も11秒275でトップを奪う。その後セッションも後半に入ると日浦は9周目に10秒975とタイムを削って再びトップに立つ。前回岡山国際で初ポールポジションを獲った石塚健や渥美心、上和田拓海らの若手、ベテランの岩崎哲朗も11秒台に入れ、上位陣はセッション終盤

の攻撃で順位を目まぐるしく入れ替える。その中で関口が10秒589で再びトップに浮上した。そして日浦と関口が相次いでシケインから姿を表した最後の攻撃は日浦が10秒587をマークするものの、続いて関口が10秒147までベストを更新してポールポジションを獲得した。3番手は11秒026で上和田、水野、石塚、生形でセカンドロウ、続く浦本、渥美、岩崎までが11秒台でひしめき、激しい決勝レースを予感させるセッションとなった。18位以内でゴールすれば自力でタイトル獲得となる浦本。追う関口は勝つことだけを考えて臨む。

『目標タイムは2分10秒5あたりで、欲を言うと(レコードタイムの)9秒台という考えもあったんですけど、こだわりは無かったですね。最後にニュータイヤでアタックに入りましたが、日浦選手が後ろにいたので抜かせたことでタイムが出せました。ウィークを通じて決勝用タイヤを使っていて、その状態でどこまで出せるかの確認や車体との確認もありました。チャンピオンは何か無いと難しいですが、まずは勝つことが絶対条件ですので、最後まで諦めずにしっかり走ります。自分もそのために生活し、準備し、トレーニングしているわけですから。4年振り(2012年もてぎ)のポールポジションですけど、緊張はしていません。スタートは得意ですので大丈夫です!』

ST 600
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW



前田恵助がレコードタイムでポールポジション! 「決勝では勝つしかないと思っています」



ポールポジション: R 2'11.920

#5 前田恵助

※R=レコードタイム

伊藤レーシングGMDスズカ

J-GP3に続いて行われたST600クラスの公式予選も35分間の1セッションでの争い。ST600の場合は予選・ウォームアップ・決勝を通しての使用タイヤが2本という制限もあり、予選セッションの序盤でタイムアタックを行うライダーが多い。今回も上位陣はコースインしたアウトラップが終了すると同時にアタックを開始。中でもポイントリーダーの前田恵助は、2周目にいきなりレコードタイムをブレイクする2分11秒920をマーク(旧レコード12秒032:2013中冨伸一)、その時点での2番手、榎戸育寛の12秒689に大きく差をつけてトップに立った。

3番手に12秒833でデチャ・クライサー、4番手にはそのチームメイトのチャランボン・ボラマイが付けていたが、チャランボンはその直後に12秒514をマークして2番手に浮上。5番手には13秒484で岩戸亮介、6番手の名越哲平は14秒056。その後、残りのセッションでこの順位は変わらず、前田が地元コースでポールポジションとなった。2番手チャランボン、3番手榎戸でフロントロウ、デチャ、岩戸、名越までがセカンドロウとなる。今季優勝のない前田が勝ってタイトルを決めるか、対する10ポイント差で追うチャランボンがどのように戦うのか、注目したい。

『予選では、レコードを出すというより(チームの大先輩)大崎誠之さんのタイムをとにかく上回りたいかったです。鈴鹿はもともとホームコース、チームの地元でGP125の頃から走ってますし、鈴鹿のようなハイスピードのコースは自分には合っていると思います。今季優勝がないので、決勝では勝つしかないと思っています。自分の中ではメンタル的に弱い部分もあるので、そこを克服して勝ってチャンピオンを決めたいです。決勝ではタイの2人、榎戸選手が来るとは思いますが、終盤に引き離して勝てるように、決勝前のフリー走行で最後の確認をしたいと思います』

J-GP3
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

タイトルを狙う徳留真紀が今季2度目のポール獲得! 「レースではボクがペースを作って勝ちたい」



ポールポジション: 2'18.272

#36 徳留 真紀

CLUB PLUSONE

小春日和に恵まれた土曜日、全日本最初の予選となるJ-GP3は、木曜日の練習走行から好調の徳留真紀が2分18秒272でポールポジションを獲得した。セッションは伊達悠太が早々に19秒台に入れてトップに立った直後、徳留がそれを上回る19秒183でトップを奪う。その後も徳留はアタックを続け、セッションの前半で早くも唯一の18秒台でトップをキープ。3番手の中村大輝、栗原佳祐、安村武志までが20秒台で続く。

35分のセッションの後半、上位陣がタイムを更新

し、栗原が19秒台に入れて2番手に浮上、中村も19秒台に入れる。しかし、徳留も18秒272とさらにタイムアップ、トップを盤石のものとし、今季2度目のポールポジションを決めた。

2番手にはこちらも最後に19秒067までタイムアップした栗原で、タイトルを争う直接のライバル同士が並ぶこととなった。

3番手には後半に19秒564までタイムアップした中村、伊達は序盤のタイムで4番手となった。安村、船田俊希、古市右京と続く。

『得意な鈴鹿でウィークを通じて一人で走って良いペースを刻めています。バイクも安定して走っているし、(前回)岡山国際で使ったユーズドタイヤでも良いタイムを刻めているので、タイヤのパフォーマンスともマッチしている感じです。気候的にもタイムが出やすい季節で、金曜日に新品タイヤにして1秒タイムアップできました。17秒台も目でしたが、シフトミスで入りませんでしたけど。レースでは相手のあることなので、走ってみたいと分かりませんが、ボクがペースを作ってレースを組み立てたいと思っています。集団になったら、クリーンなバトルをしたいですね』

MFJ Superbike Round 9 MFJ Grand Prix SUPERBIKE RACE in SUZUKA 05 - 06 Nov. 2016 公式予選結果



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走29台
●決勝[Race2]スタート進行/14:50(20周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	12	津田 拓也	ヨシムラスズケルアドバンス	GSX-R1000L6	2'05.824
2	1	中須賀 克行	YAMAHA FACTORY RACING TEAM	YZF-R1	2'05.847
3	634	高橋 巧	MuSASHI RT ハルク・プロ	CBR1000RR	2'06.450
4	26	渡辺 一樹	Team GREEN	ZX-10R	2'06.559
5	91	Leon HASLAM	Team GREEN	ZX-10R	2'06.611
6	7	野左根 航汰	YAMALUBE RACING TEAM	YZF-R1	2'06.964
7	15	藤田 拓哉	YAMALUBE RACING TEAM	YZF-R1	2'07.242
8	104	山口 辰也	TOHORacing	CBR1000RR	2'07.629
9	090	秋吉 耕佑	au & テルル・Kohara RT	CBR1000RR	2'07.896
10	71	加賀山 就臣	Team KAGAYAMA	GSX-R1000	2'07.993
11	32	今野 由寛	Moto Map SUPPLY	GSX-R1000	2'08.091
12	85	中富 伸一	HITMAN RC甲子園ヤマハ	YZF-R1	2'08.632
13	39	酒井 大作	Team Motorrad39	S1000RR	2'08.742
14	34	近藤 湧也	GBSレーシング Mochizuka YAMAHA	YZF-R1	2'09.067
15	72	高橋 裕紀	MORIWAKI RACING	CBR1000RR	2'09.868
16	18	中津原 尚宏	オートテックスポーツPGR	CBR1000RR	2'10.937
17	19	寺本 幸司	Motorrad Rennsport	S1000RR	2'11.013
18	20	小島 一浩	Honda熊本レーシング	CBR1000RR	2'11.303
19	135	児玉 勇太	Team Tras 135HP	S1000RR	2'11.451
20	14	武石 伸也	SYNCEEDGE 4413 Racing	S1000RR	2'11.960
21	66	筒井 伸	DOGFiSHオーテックスズカ	CBR1000RR	2'13.633
22	99	吉田 和憲	icu RT 大阪メビウス Navel Rose モトキッズ	YZF-R1	2'14.117
23	17	吉田 光弘	Honda熊本レーシング	CBR1000RR	2'14.332
24	21	須貝 義行	チームスガイレレーシングジャパン	RSV4	2'14.583
25	37	樋口 耕太	H.L.O RACING	GSX-R1000L3	2'14.865
26	539	高田 昌明	北海道サベダー	CBR1000RR	2'15.416
27	35	古澤 幸也	RED SEED Motorrad	S1000RR	2'15.850
以上予選通過車両					
28	45	坂本 弘正	北海道サベダー&ブラビッシモ	GSX-R1000	2'18.815
22		出口 修	エヴァERT初号機TRICKSTAR	ZX-10R	計測できず
予選通過基準タイム(110%) 2'18.644					

★JSB1000[Race2]のスターティンググリッドは、ノックアウト公式予選Q1にて記録されたタイム順です。



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走24台
●決勝スタート進行/9:50(12周)

Pos	No.	Cls.	Name	Team	Machine	BestTime
1	36		徳留 真紀	CLUB PLUSONE	NSF250	2'18.272
2	634		栗原 佳祐	MuSASHI RT ハルク・プロ	NSF250R	2'19.067
3	50		中村 大輝	Honda Team Asia	NSF250R	2'19.564
4	31	Y	伊達 悠太	BATTLE FACTORY	NSF250	2'19.825
5	8		安村 武志	犬の乳酸菌/プリミティブ.R.T	PRCS3C	2'20.012
6	10	Y	船田 俊希	FLEX Racing TEAM	NSF250R	2'20.108
7	7		古市 右京	KTM RACING. ASPIRATION	RC250R	2'20.404
8	23		大澤 恒貴	team hirock & HARC	NSF250R	2'20.450
9	410		宇井 陽一	41Planning.GlobalCommunication	TR-004	2'20.673
10	11	Y	関野 海斗	Team P.MU 7C	NSF250R	2'20.885
11	18		山本 恭裕	チームライフ・ドリーム北九州	NSF250R	2'21.157
12	41	Y	佐藤 勲	41Planning	NSF250	2'21.240
13	12		菊池 寛幸	H43 Team-NOBBY&ウイリー	NSF250R	2'21.325
14	13		岡崎 静夏	UQ&テルル・Kohara RT	TSR3	2'21.441
15	33	Y	長谷川 聖	CLUB Y's☆BATTLE☆J	NSF250R	2'21.881
16	15		高杉 泰緒子	41Planning	NSF250	2'22.128
17	21	Y	中山 愛理	TEAM PLUSONE	NSF250R	2'22.156
18	28		野澤 秀典	ノザワレーシングファミリー	NSF250R	2'22.210
19	45	Y	太田 虎之進	CLUB PLUSONE	NSF250	2'22.443
20	26		川瀬 啓一郎	チーム KOHSAKA	TSR3	2'22.532
21	58		三好 菜摘	オーテック・ズカ+RGニワ	NSF250R	2'22.765
22	72		岸田 慶一	FLEX Racing TEAM & MH OHARA	NSF250R	2'23.324
23	39		金子 寛	ifレーシング AutoMac 翔天恭	NSF250R	2'23.454
24	24		畑中 要	FTR・タイヤナビ・遠藤住宅	NSF250R	2'25.514
25	99		白石 玲菜	Team Reina with O-TEC SUZUKA	NSF250	2'27.070
以上予選通過車両						
Y=ユースカップ登録ライダー 予選通過基準タイム(110%) 2'32.099						



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走25台
●決勝スタート進行/13:45(15周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	44	関口 太郎	MISTRESA with HARC-PRO.	HP6	2'10.147
2	46	日浦 大治朗	MORIWAKI RACING	MD600	2'10.587
3	81	上和田 拓海	Webikeチームノックヤマハ	YN6	2'11.026
4	634	水野 涼	MuSASHI RT ハルク・プロ	HP6q	2'11.033
5	17	石塚 健	WILL-RAISEracingRS-ITOH	ZX-6R	2'11.100
6	2	生形 秀之	エスパルスドリームレーシング	GSX-R MFD6	2'11.149
7	94	浦本 修充	Team KAGAYAMA	GSX-prot071	2'11.206
8	090	瀧美 心	au & テルル・Kohara RT	TSR 2	2'11.371
9	70	岩崎 哲朗	OGURAcClutch with パワービルダー	ZX-6R	2'11.960
10	55	國峰 琢磨	H43 Team-NOBBY	HP6-q	2'12.045
11	15	作本 輝介	Team 高武 RSC	MD600	2'12.216
12	10	佐藤 太紀	au & テルル・Kohara RT	TSR 2	2'12.253
13	8	大木 崇行	MOTO BUM + 虎の穴	CBR600RR	2'12.421
14	392	長尾 健吾	ミニ テリー&カリ	GSX-R600	2'12.676
15	74	三原 杜紫	H43 Team-NOBBY	HP6-q	2'12.823
16	93	稲垣 誠	AKENO SPEED-YAMAHA	YZF-AS6	2'13.325
17	45	古山 颯太	MotoPod&YSP名古屋西	YZF-R6GK	2'13.413
18	21	中本 翔	リリカ AMENA with OUTRUN	YZF-OR6	2'13.977
19	39	柴田 陸樹	RS-ITOH&AUTOBOY	ZX-6R	2'13.988
20	30	高橋 颯	CLUB PLUSONE	HP6	2'15.427
21	31	岡本 裕生	Webikeチームノックヤマハ	YN6	2'15.756
22	32	Max Croker	チームヨシナル&K1Racing	FTR	2'17.191
23	19	赤間 清	MISTRESA with HARC-PRO.	HP6	2'18.863
24	34	山内 宏之	立秋モーターズ&RC甲子園	YZF-R6	2'19.776
以上予選通過車両					
22		朝比奈 正	アサヒレーシング	Z600	計測できず
11		井筒 仁康	WILL-RAISEracingRS-ITOH	ZX-6R	出走せず
予選通過基準タイム(110%) 2'23.161					

Supported by BRIDGESTONE



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走31台
●決勝スタート進行/11:45(12周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	5	前田 恵助	伊藤レーシングGMDズカ	YZF-R6	R 2'11.920
2	65	Chalempol POLAMAI	Yamaha Thailand Racing Team	YZF-R6	2'12.514
3	9	榎戸 寛貴	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	2'12.689
4	2	Decha KRAISART	Yamaha Thailand Racing Team	YZF-R6	2'12.833
5	8	岩戸 亮介	Team 高武 RSC	CBR600RR	2'13.484
6	73	名越 哲平	MuSASHI RT ハルク・プロ	CBR600RR	2'14.056
7	74	奥野 翼	AKENO SPEED-YAMAHA	YZF-R6	2'14.261
8	14	伊藤 和輝	UQ&テルル・Kohara RT	CBR600RR	2'14.455
9	85	松崎 克哉	RS-ITOH&能塚	ZX-6R	2'14.541
10	23	津田 一磨	AKENO SPEED	YZF-R6	2'14.819
11	43	亀井 雄大	Honda鈴鹿レーシングチーム	CBR600RR	2'15.160
12	76	和田 留佳	RS-ITOH&サンタバイク	ZX-6R	2'15.261
13	52	岡村 光炬	RS-ITOH&FA.com保険職人	ZX-6R	2'15.472
14	19	中山 真太郎	TEAMしんたろう with KRT	CBR600RR	2'15.534
15	39	中村 豊	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	2'15.557
16	20	清末 尚樹	RS-ITOH	ZX-6R	2'15.738
17	42	名越 公助	GBSレーシング マツエ7 YAMAHA	YZF-R6	2'15.876
18	46	星野 知也	TEAM PLUSONE	CBR600RR	2'16.095
19	28	北岡 慎也	伊藤レーシングGMDズカ	YZF-R6	2'16.325
20	40	山元 聖	51ガレージ チームイワキ	YZF-R6	2'16.483
21	44	松川 泰宏	MOTO BUM HONDA+SAI	CBR600RR	2'16.557
22	41	田所 隼	TEAM PLUSONE	CBR600RR	2'16.735
23	35	櫻井 賢一	ホンダドリーム高崎B'WISE RT中央前橋	CBR600RR	2'17.435
24	106	大野 英樹	B-DASH106 Snail Racing	ZX-6R	2'17.702
25	69	山内 芳則	YSSマキユール&TTS	ZX-6R	2'17.762
26	51	宗和 孝宏	51ガレージ チームイワキ	YZF-R6	2'17.807
27	37	鈴木 力	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	2'17.994
28	31	澤村 俊紀	ホンダドリーム高崎B'WISE RT中央前橋	CBR600RR	2'18.614
29	32	長嶋 修一	大道建設モーターズ	CBR600RR	2'18.996
30	48	村瀬 豊	ifレーシング&モトテックRS	CBR600RR	2'19.239
31	91	喜井 勝弥	TeamGRIFON&池田モーターズ	YZF-R6	2'20.278
以上予選通過車両					
"R"マークの車は、コースレコードを更新しました。従来のレコードタイムは 2'12.032 予選通過基準タイム(110%) 2'25.112					

●2016年全日本ロードレース選手権各クラス最新ランキング(第8戦岡山国際大会終了時の暫定)
 [JSB1000クラス] 1位/中須賀克行(140) 2位/津田拓也(113) 3位/山口辰也(104) 4位/渡辺一樹(103) 5位/高橋巧(102)
 [J-GP2クラス] 1位/浦本修充(128.7) 2位/関口太郎(106) 3位/水野涼(82.7) 4位/生形秀之(78.3) 5位/國峰琢磨(71)
 [ST600クラス] 1位/前田恵助(71) 2位/Chalempol POLAMAI(61) 3位/岩戸亮介(57) 4位/名越哲平(56) 5位/松崎克哉(56)
 [J-GP3クラス] 1位/徳留真紀(92) 2位/栗原佳祐(88) 3位/安村武志(59) 4位/菊池寛幸(55) 5位/佐藤勲(53)
 ※全日本ロードレース選手権ポイントシステム:優勝(25) 2位(22) 3位(20) 4位(18) 5位(16) 6位(15)以下20位まで1点刻み...20位(1)
 ※MFJ-GPでは、各順位にボーナスポイント3点がそれぞれ加算、JSB1000クラスは各レース毎に上記のポイントが加算されます。

INFORMATION

RIDE & DRIVE 番組タイトル一新! 2輪・4輪全てのモータースポーツファン向け帯番組

- 無料BSチャンネル「BS12 トゥエルビ」でシリーズ全戦を放映!
- JP250「MFJカップシリーズ」全6戦のダイジェストを単独番組で3回放映!

★詳しい放映スケジュールはファンサイトで!(スケジュールが変更されています)

■第9戦MFJ-GPスーパーバイクレース in 鈴鹿 放映スケジュール

11月12日(土) 19:00~19:54



大きく変わったインターネットライブ中継!



サーキットの場内監視(ポスト)映像に外部カメラ映像をプラス、新システムで「MFJライブチャンネル」にて配信。より充実した中継配信を目指します。※通信環境によりテレビ配信となる場合もあります

YouTube MFJ SUPERBIKE オフィシャルチャンネルでは、予選・決勝直後のライダーインタビューを中心に、全日本ロードレースの迫力を動画にて配信!

詳しくはファンサイトで → <http://superbike.jp/>

